

－ 2018 春季生活闘争 第4回医療(看護師)職場の意見交換会－ 『また頑張ろう!』、他組合の取り組みに学び合う

連合北海道は2月14日、「第4回医療(看護師)職場の意見交換会」を札幌市内で開催した。

意見交換会には産別や地域の病院単組から看護師や助産師等26名が参加した他、北海道医療勤務環境改善支援センターの赤井センター長らも同席。各病院の実態報告や、パワハラをテーマにした学習会・分散会を通して、他組合や職場の取り組みを学び合い、働き続けられる職場の実現に向けて春季生活闘争での取り組みに活かしていこうと確認し合った。

参加者からは、「他の医療職場や他職種の就労状況、現状の問題をリアルに聞くことができ、どう対処すればいいのか参考になった」などの感想とともに、「厳しい職場だが、意見交換会に参加してまた頑張ろうと思う」、「この意見交換会をきっかけとして、他の組合との交流が始まった」との報告があり、ふだんなかなか交流することがない産別を越えた医療職場の意見交換会・交流が、貴重な場となっていることが改めて確認された。

◆各職場の取り組みや勤務環境で情報交換

職場の実態報告では4産別1地域の9組合から、有給休暇の取得状況や時間外労働の実態、離職防止のためのワークライフバランスの導入や福利厚生状況について報告された。

時間外労働では、「部署により差が大きい」との各職場共通の課題の他、「研修等が時間外労働として認められた」との報告がされた。また、年休の取得については「年休の完全取得は労使一体で取り組んでおり、オルグ等組合員に周知し、組合員の意識付けもされた。取得はこの5年間でかなり進んだ」などの報告に参加者は耳を傾けていた。

厳しい勤務環境が看護師の定着率の低下を招き、看護師不足の要因になっていることから、参加者らは看護師の深夜勤や交替制勤務の状況、「定着率の高さは何が要因か」などと、自分の職場の取り組みに参考にしようと熱心に質問、意見交換がされた。



◆パワハラについて学習

「『医療の質向上』に向けた働きやすい職場の環境づくり」と題して、職場のパワーハラスメントを中心に講演した北海道医療勤務環境改善支援センターの富樫真紀子アドバイザーからは、ハラスメントの現状や、パワーハラスメントの概念、行為類型、判例に基づいた具体例を説明するとともに、「人格を否定するような言動で指導していないか」「指導スタイルは、部下のキャリアに応じて行っているか」「どう伝わったか確認しているか」など、パワハラと言われない業務指導のポイントや「怒りの感情のピークは6秒間。一息ついて」と衝動のコントロールについてもアドバイスがあった。

その後の分散会でも、キャリア別に6人程度のグループに分かれ、職場内のハラスメントの現状分析、改善策について討議するグループワークと発表が行われた。参加者は「時間が足りなく感じるほどいろいろな意見が出て面白かった」「現状を語り合うこと、共有することがリフレッシュになりました」と話していた。

